



流域下水道の下水管の取組について

令和8年5月
県土整備局

1. 流域下水道について

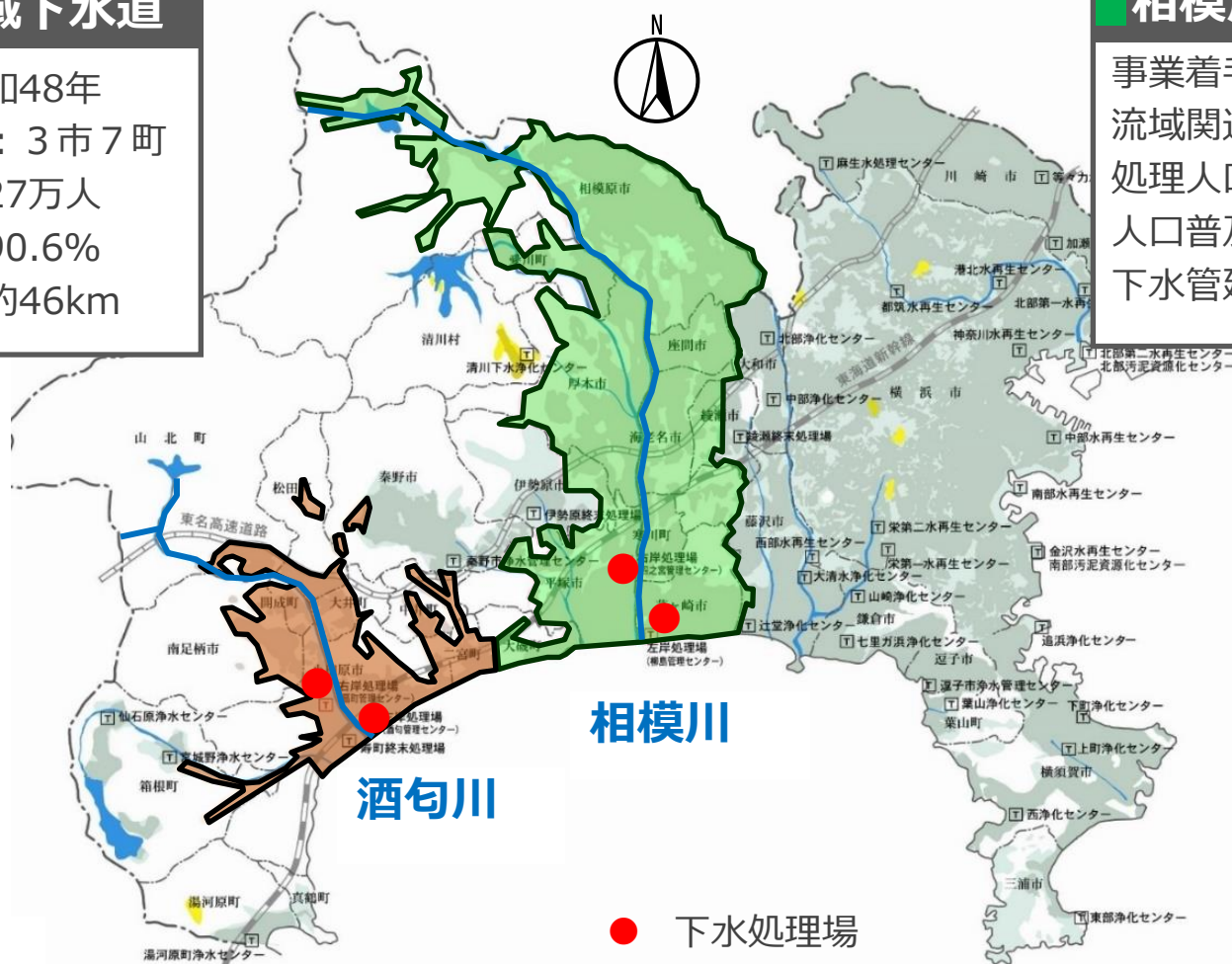
- ・ 県では、県民の水道水源である相模川、酒匂川の水質保全と流域市町の生活環境の改善を図ることを目的に流域下水道事業を実施
- ・ 相模川流域と酒匂川流域を合わせて約174kmの下水管を管理

酒匂川流域下水道

事業着手：昭和48年
流域関連市町：3市7町
処理人口：約27万人
人口普及率：90.6%
下水管延長：約46km

相模川流域下水道

事業着手：昭和44年
流域関連市町：9市3町
処理人口：約182万人
人口普及率：96.3%
下水管延長：約128km



2. 下水管の老朽化対策について

- 令和7年1月28日、埼玉県八潮市で下水管に起因する道路陥没事故が発生

【緊急点検】

県独自の取組として全ての下水管(延長約174km)を対象に実施

流下状況調査



空洞調査



下水管に起因する異常は認められていない

【全国特別重点調査】

国からの要請に基づき、管径2m以上かつ30年経過管(延長約61km)を対象に実施

自走式テレビカメラ



テレビカメラ調査画像



国の劣化診断の判定基準が従来より強化

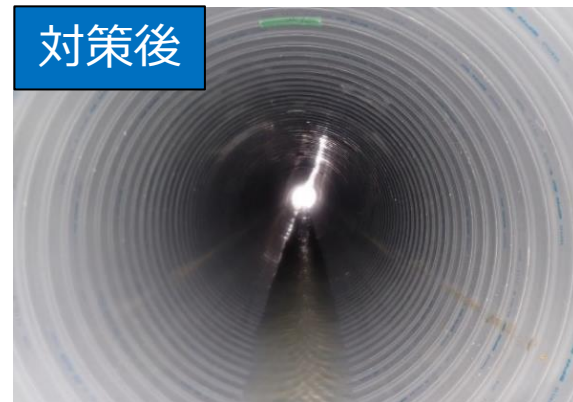
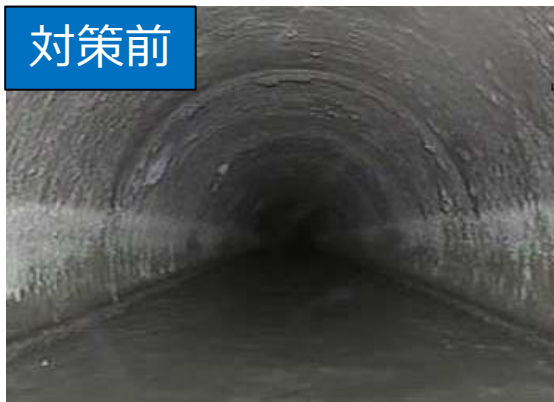
緊急度Ⅰ：約2.3km
緊急度Ⅱ：約5.0km

2. 下水管の老朽化対策について

- ・ 令和8年度から下水管の老朽化対策を加速化
 - 緊急度Ⅰ：今年度対策を実施
 - 緊急度Ⅱ：応急措置を行ったうえで、令和12年度までに対策を実施

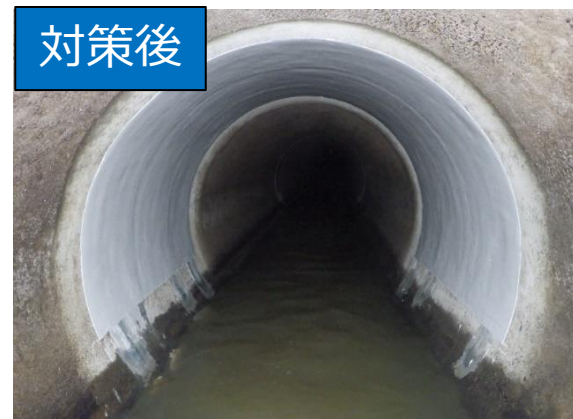
腐食など、劣化箇所が広範囲の場合

↓
改築



ひび割れなど、劣化箇所が部分的な場合

↓
補修

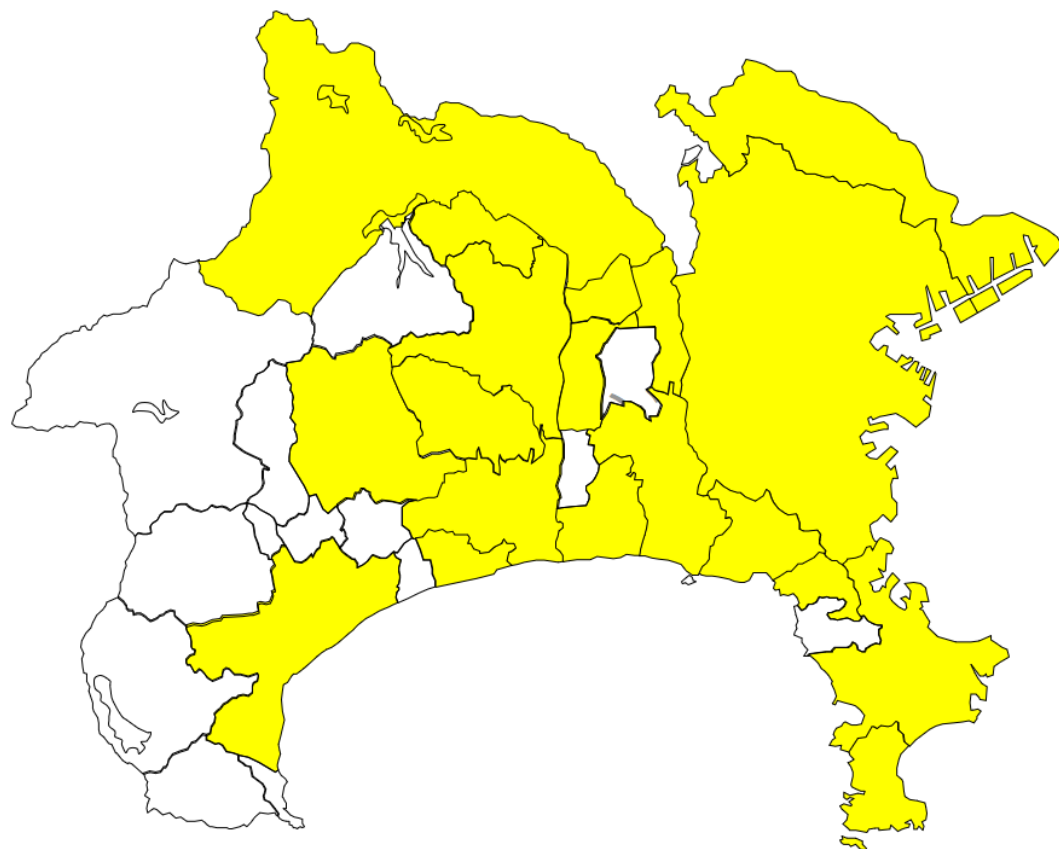



大規模（管径2m以上）かつ古い（30年経過）下水管の健全性の確保を目指す

2. 下水管の老朽化対策について

・ 県内における全国特別重点調査の結果 (令和8年4月21日 国土交通省公表資料 (2月末時点) より)

単位: km



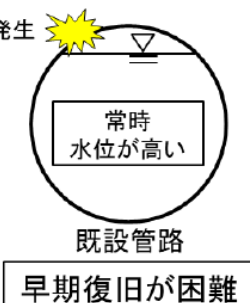

 :全国特別重点調査実施市町

	調査対象 延長	要対策延長		備考
		緊急度 I	緊急度 II	
横浜市	410.000	2.100	3.500	一部調査中
川崎市	43.736	0.525	0.311	一部調査中
相模原市	51.304	0.031	3.863	
横須賀市	25.521	0.443	0.423	
平塚市	21.605	1.886	0.698	
鎌倉市	0.401	0.001	0.000	
藤沢市	16.732	9.601	3.807	
小田原市	9.700	0.000	0.000	一部調査中
茅ヶ崎市	1.351	0.000	0.000	一部調査中
逗子市	0.382	0.059	0.008	
三浦市	1.094	0.000	0.000	一部調査中
秦野市	7.698	0.000	0.000	
厚木市	12.814	2.055	0.483	一部調査中
大和市	10.634	0.946	0.050	一部調査中
伊勢原市	0.965	0.000	0.000	一部調査中
海老名市	4.736	0.330	0.104	
座間市	4.832	0.000	0.701	
大磯町	0.344	0.000	0.000	
愛川町	2.822	0.000	1.879	
計	626.671	17.976	15.827	

対策の実施にあたっては、令和8年度より重要下水道管路更新事業が新たに創設されるなど、国の予算の活用が可能

2. 下水管の老朽化対策について

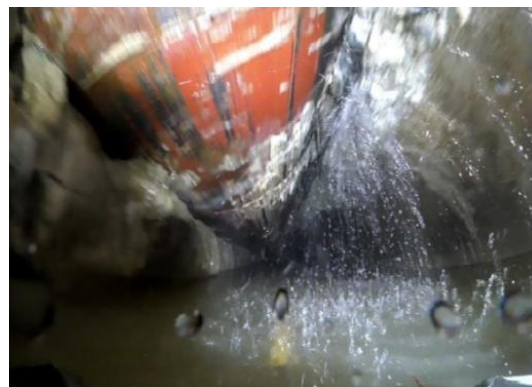
・ 国では埼玉県の事故を受け下水管のマネジメントに関する技術基準等の見直しを検討

	これまで			今後		
	区分	頻度	方法	区分	頻度	方法
点検の基準	硫化水素の発生により腐食のおそれ大きい箇所	5年に1回以上	人やTVカメラ等による目視	硫化水素濃度が特に高い(50ppm以上)の箇所 硫化水素濃度が高い(50ppm未満)の箇所	3年に1回以上 5年に1回以上	人やTVカメラ等による目視 + 管厚測定などの定量点検
構造に関する基準	常時水位が高いことで人が管内に入って点検や復旧が困難 損傷発生 			下水を切り替えることにより点検や修繕を実施できるよう、下水管を複線化 損傷を復旧 		

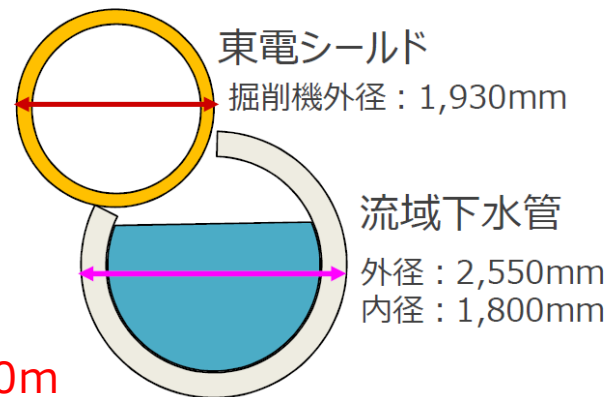
今後、国の考えも取り入れながら、下水管の維持管理に取り組んでいく

3. 下水管の破損事故について

<損傷状況：写真>



<損傷状況：断面>



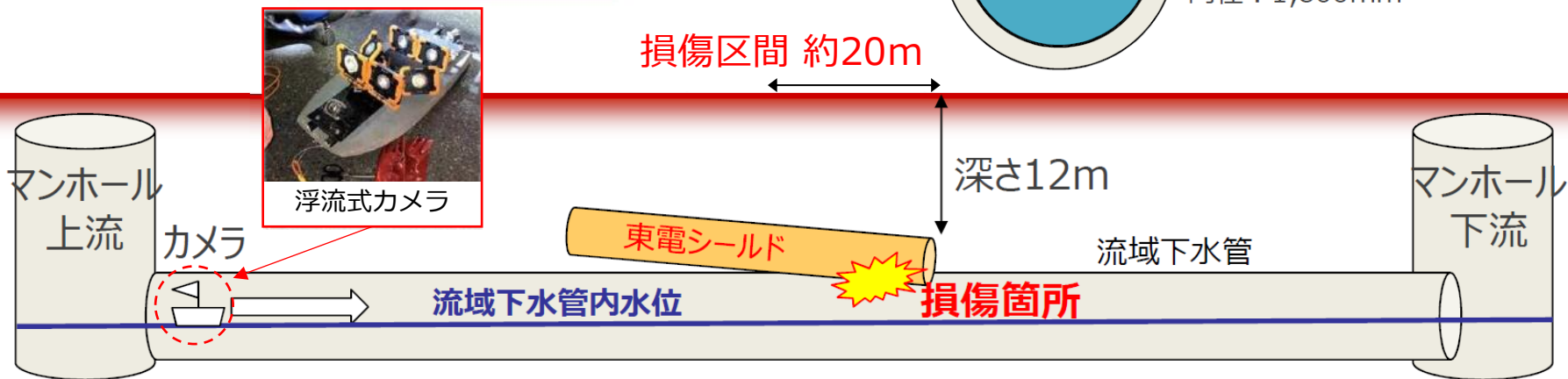
事故発生箇所

令和7年8月29日
相模原市中央区上溝



損傷区間 約20m

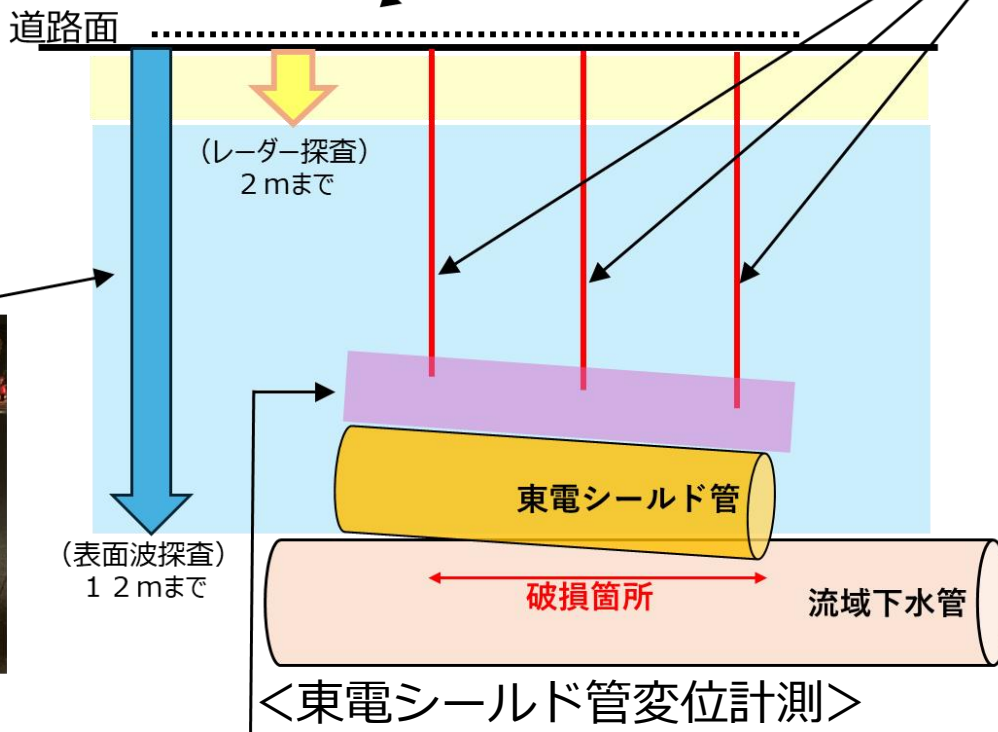
深さ12m



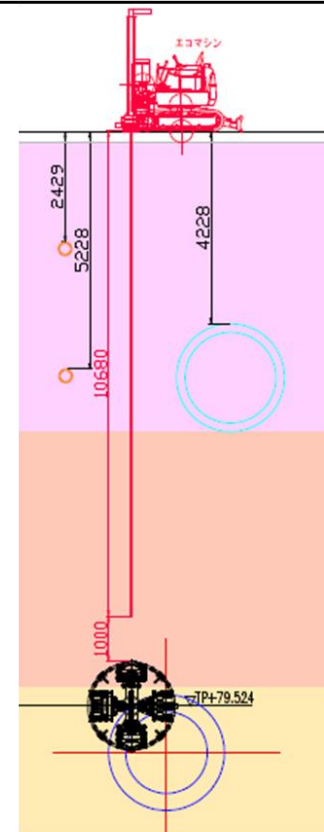
3. 下水管の破損事故について

○ 二次災害防止に向けたモニタリングの実施

<路面の変状調査>



<ボーリング調査>



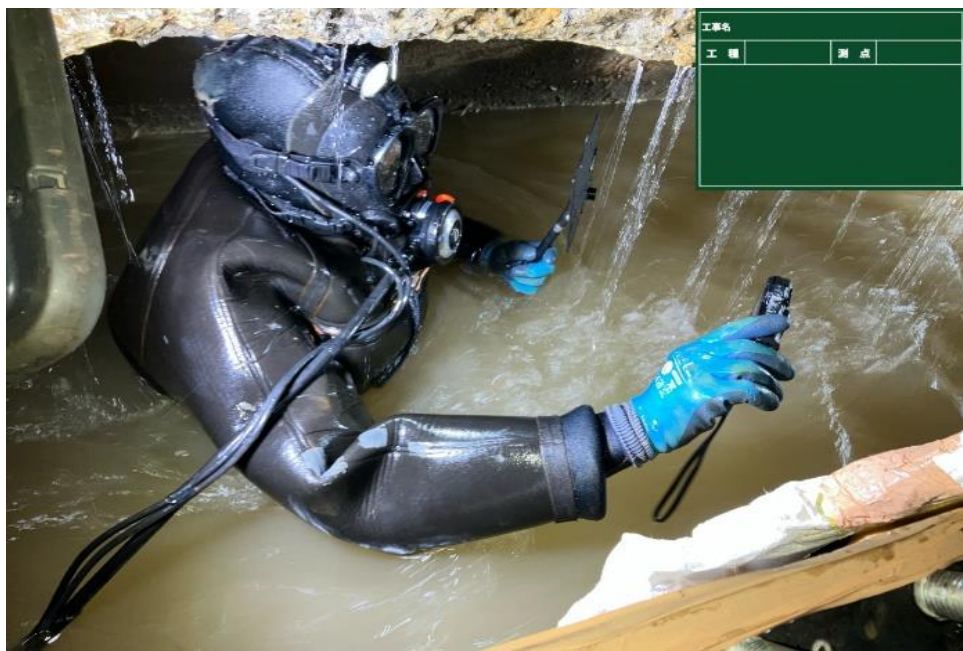
<空洞調査>



3. 下水管の破損事故について

○ 東京電力パワーグリッド(株)による下水管内の作業状況

■ 事前調査の状況



■ 撤去作業の状況

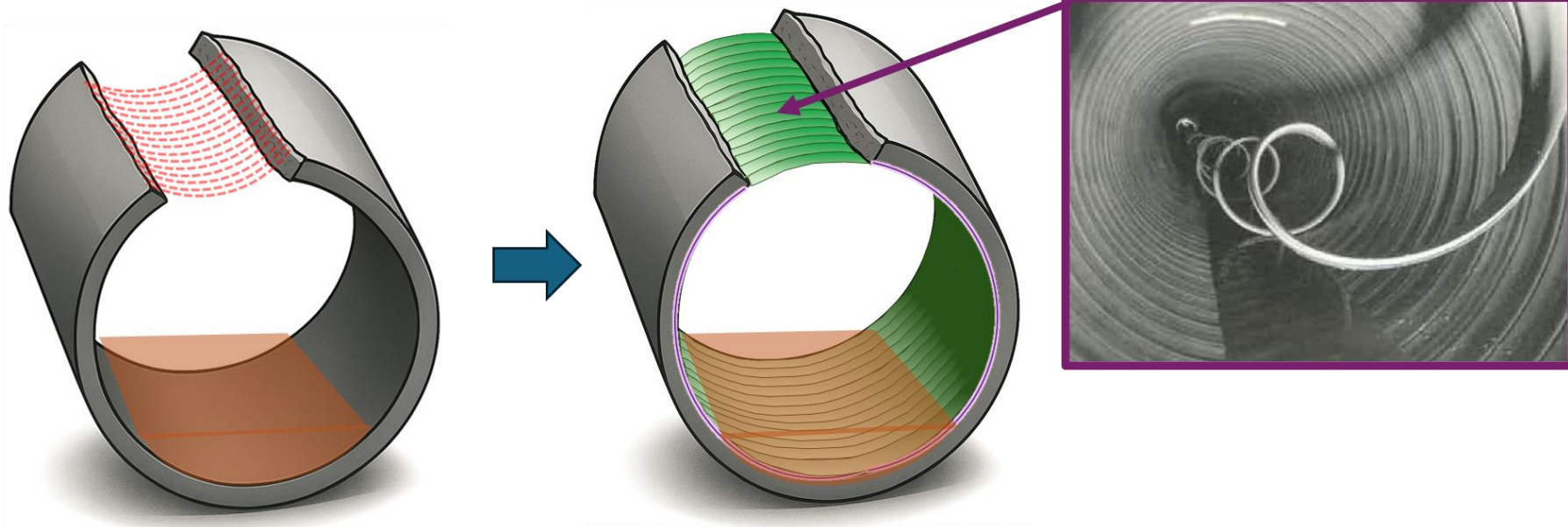


3. 下水管の破損事故について

■ 下水管の機能回復 令和8年度末の完了を目標

(1) 東京電力シールド管の貫通部分を撤去

(2) 下水管内部に部材を巻き立て管を元どおりに修復(更生工事)

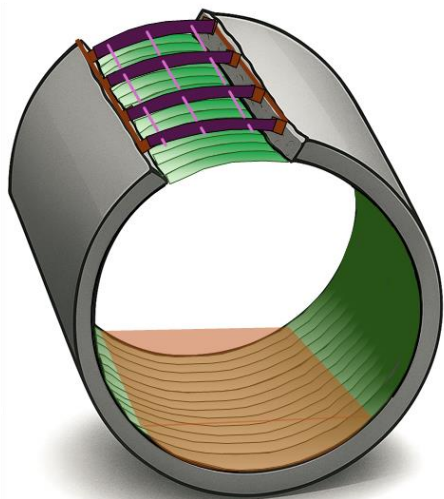


3. 下水管の破損事故について

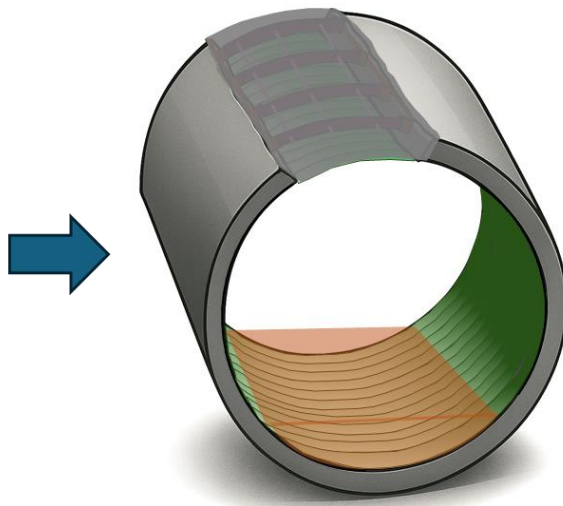
■すべての復旧工事の完了 **令和9年度末を目標**

下水管 破損部の断面修復

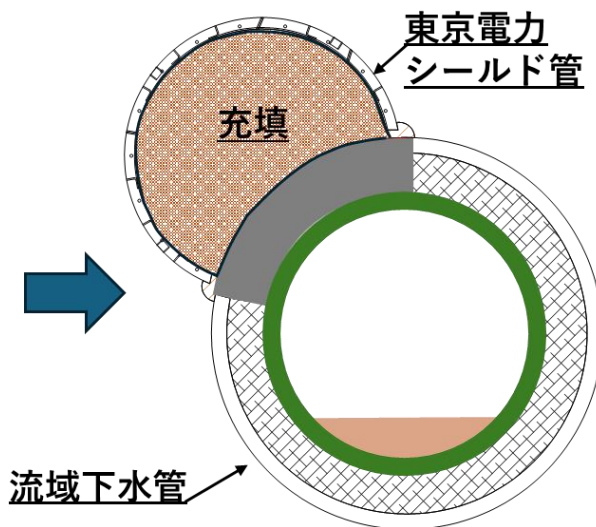
(主桁補強)



(コンクリート充填)



東京電力シールド管 内部充填



3. 下水管の破損事故について

- ・ 水道管やガス管などの占用物は地上から確認できないため、国は、**占用情報を一元化する道路占用関連システムの開発を進めている。**
- ・ このシステムにより、**道路管理者と占有者が地下インフラの情報を共有することで、今回のような事故を未然に防止することが期待できる。**

新たな道路占用関連システムのイメージ

